

巻 頭 言

「SSH 探究を通じ課題解決力を育む」

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校
校長 太田垣 淳一

おかげさまで本校は、SSH 2 期 4 年目を迎えることができました。これもひとえに、運営指導委員をはじめとするみなさまのご指導・ご支援があったことです。まずはここに厚く御礼申し上げます。

さて本校はこれまで、「問う力」を育成すべく全校を挙げて授業改善等に取り組んで参りましたが、令和 5 年度からはこれをさらに一歩進め、あらゆる学びが探究（課題解決）に収束するような、カリキュラムの構造改革を予定しています。とりわけ附属中からの内部進学生に対しては、中 1 から高 2 まで最低 2 コマ／週の探究の時間を確保します。内容もいわゆる理数探究と総合（地域課題解決）探究の 2 本立てとし、伝統的な純粋科学から”STEAM”と言われる実践的な科学まで、文理の垣根を超え時代のニーズに合った探究教育のあり方を率先して開拓して参る所存です。

依然として日本は、自然科学分野の引用論文数が過去最低を記録^{*1}し、イノベーション力についても先進国最下位クラスを低迷^{*2}しています。理論・実践双方に深刻な課題を抱え膠着した現状に対し、風穴を空け得るのが「課題解決」の視点です。対象の抽象度や具体的な作法は違えども、二つの探究はともに現状への批判をスタートとし、創造的な解決をゴールとします。唯一無二の正解なき新常态の世において、また研究開発の自動化（ラボラトリーオートメーション）などが人間の存在意義を脅かす中、このような攻めの学びを通して成長した、創造的で主体的で多様な人材を急ぎ社会にお届けすることが、学校に課された現時代的な使命だと認識しています。

みなさまには引き続きご支援賜りますとともに、本校における SSH 探究の取組みがさらなる価値を生みますよう、温かいご批判・ご提案を賜れましたら幸いです。

(*1) 「自然科学分野の引用論文数 日本は過去最低の 12 位に後退」（2022 年 8 月 28 日 NHK NEWS WEB）

(*2) Global Innovation Index 2020